

令和7年度 巡回現場会議 概要

<実施目的>

■巡回現場会議は、建設現場における施工の効率化、生産性の向上、担い手の確保・育成などを目的とした施策の実施状況の確認と課題を把握し、必要に応じ改善を図るため、工事発注や監督に直接関係しない本局の企画部職員が各事務所の建設現場等を巡回する取り組み（平成22年度から開始）

<令和7年度の実施方法>

■受注者との意見交換

時間外労働の実態と要因、設計図書の精度や工事書類の簡素化、設計変更の対応、監督職員の対応やガイドラインマニュアル等の改善点など、現場代理人等と率直な意見交換を行う。

■主任監督員、現場技術員との意見交換

土木工事電子書類スリム化ガイドや遠隔臨場、ワンデーレスポンスなどの運用状況や課題、所内間や受発注者間におけるコミュニケーションの状況などについて主任監督員と現場技術員と率直な意見交換を行う。

■令和7年度の実施状況

23事務所 25現場で実施

<過去の実施件数>

年度	事務所数	現場数
H22	27	46
H23	28	78
H24	27	65
H25	27	81
H26	28	84
H27	28	84
H28	29	87
H29	30	91
H30	30	89
R1	30	90
R2	4(15)※1	12(45)※1
R3	29(14)※2	87(42)※2
R4	12	16
R5	21	30
R6	21	24

※1 ()アンケートのみ回収
 ※2 ()うちWEB開催



受注者ヒアリング状況

受注者との意見交換の結果（受注者からの主な意見）

■ 工事書類の作成は？

- ・社内クラウドサーバーを活用し、バックオフィスのサポートを受けながら作成している
- ・写真整理・出来形管理を外注化し、現場での書類作成等の作業負担が大幅に低減
- ・設計変更に係る協議資料は最も負担。条件変更に伴う設計変更も、受注者が協議資料を作成させられている
- ・仮設等において当初設計に不備が多く、現場施工時に見直しが必要な場合が多い

■ 時間外労働（超勤）の実態は？

- ・超過勤務はほとんど無し ・土日祝日の完全休みを徹底し、超勤は抑制されている ・現場では、月平均で残業はほとんどない
- ・変形労働時間制や熱中症対策（ピークシフト等）の導入を検討しているが、近隣への騒音規制や作業員の賃金確保等が課題
- ・時間外労働は、夜間作業や検査・設計変更、関係機関協議資料の作成などにより発生している

■ 現場における熱中症対策

- ・特設サイトを認知しており、安全教育等で活用している ・特設サイトの事例を参考に、WBGTを計測、作業時間に反映
- ・移動式現場のため、車載冷蔵庫、水冷タオル、空調服（会社支給）等を活用
- ・経口補水液、冷却シート、塩タブレット等の配布及び施工場所への配備、日除けシートによる簡易休憩施設の設置
- ・外部からの電源がなく、発電機を使用しているため、エアコンや冷蔵庫等を使用することが困難

■ 主任監督員や現場技術員の対応は？

- ・出張所長や担当職員とのコミュニケーションは非常に良好
- ・コミュニケーションは取れており、特に問題はないが、協議等でのワンレスができていない
- ・年度跨ぎの工事では、担当者や監督員の交代に伴い、変更協議済み施工の再検討や資料の追加作成が生じることがある

■ 現場で困っていることは？

- ・技能労働者（特に鉄筋・大工）の減少により、工事間での人材競合が想定されるため、二次製品の活用推進をお願いしたい
- ・当初計画からの遅れにより下請企業のリリース・再確保が繰り返され、作業員確保が不透明となり、作業計画の策定が困難

■ その他（要望など）

- ・工期の短さや工種の多さ、他工事との調整により現場負担が大きく、結果として工事費用が当初見込みを上回った（不調工事）
- ・概算・概略発注に伴う短期間での設計照査は負担および経費増の要因となっており、過去の精算事例にとらわれず、条件を踏まえた経費回収が必要

主任監督員、現場技術員との意見交換の結果

■受注者とのコミュニケーション状況は？

- ・定例会議、週間工程会議にて対面し、コミュニケーションをとっている
- ・月1回、事務所職員（技副、若手、PPP）を交えた現場工程会議を対面にて実施
- ・監督職員や事務所関係者との垣根も比較的低い状況を構築している
- ・基本的にWEBで実施しており、昔と比べて対面でのコミュニケーションはあまりない
- ・対面でのコミュニケーションが多い（対面の方が細かい話がしやすい）
- ・現場立ち合いや、工程会議なども通じて、受注者とは円滑にコミュニケーションを取っている

■発注担当課とのコミュニケーション状況は？

- ・必要に応じて工事発注担当課も打合せに参加をしてもらっている（現場立会には工務課担当者に同行させることもある）
- ・事務所の事業担当（PT）及び事業管理（PPP）担当者、工程や懸案などについて、密に情報共有を実施
- ・当初設計時に出張所との調整がなく、契約当初の照査で指摘・確認事項が多数ある（契約関係の書類が共有されない）
- ・風通しを良くするため、発注課と受注者とのパイプ役となってコミュニケーションを改善しようとしている
- ・工務課の職員が少ないため忙しそうで、現場からの確認事項などに時間を要してしまうと感じる

■時間外労働（超勤）の実態は？

- ・平常時の超勤はない / ・時間外労働は少ない状況（夜間工事もあるため、ゼロではない）
- ・日常的には、係長と担当は平均30～40時間ある
- ・メールの確認に時間を要している（現場確認で1日不在にしていると、1日不在にしていると、100通近くのメールがきている）
- ・ASPで書類のやりとりをしているので、残業は減っている認識（繁忙期は本社や管理技術者のバックアップがある）

■現場管理に係る改善点（悩み事）は？

- ・予算がつかない / ・維持費が非常に厳しい、お金をつけてほしい（舗装破損個所のパッチングもなかなかできない）
- ・監督詰所の通信速度が非常に遅い（CCTVの動画が表示されず静止画のみとなるなど、道路管理などにも支障がある状況）
- ・管理に関する各種手続きについてもDX化してほしい
- ・工事受注者からの協議に対して、ワンデーレスポンスできていない（すぐに返せない事務所の事情も理解できる）

■その他

- ・AI（土木に特化したシステム）を導入し、公開されている基準（国交省・NEXCO等）が確認可能となっている

受注者へのアンケート調査項目を以下に示す。

I. 現場実態把握調査

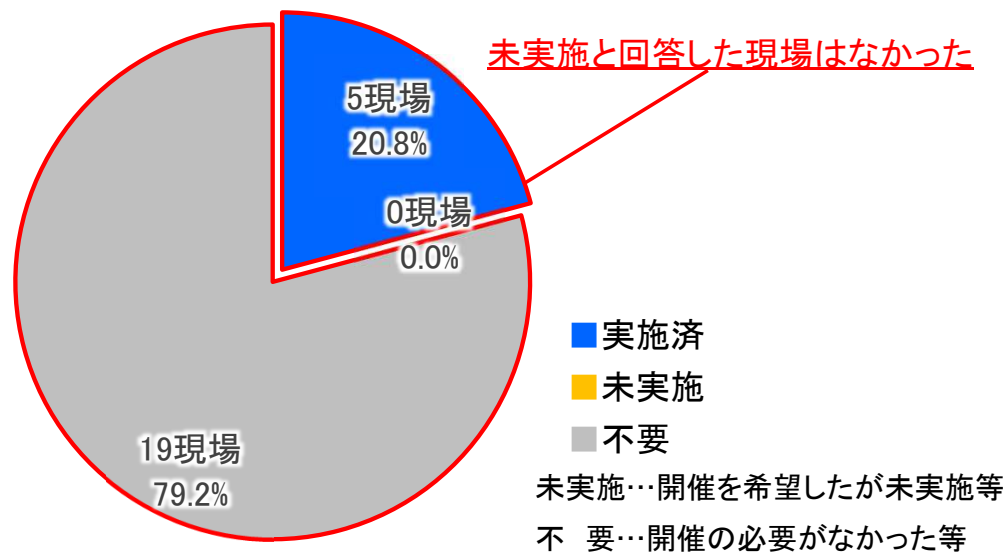
- | | | | |
|------|-------------------------------|------|--------------------------------|
| Q 1 | 三者会議の実施状況 | Q 11 | 条件明示(関係機関協議、
設計成果の引き渡し時期など) |
| Q 2 | 設計審査会の実施状況 | Q 12 | 設計成果と現場の整合状況 |
| Q 3 | ワンデーレスポンス・ウィークリースタンス
の実施状況 | Q 13 | 特記仕様書の条件明示 |
| Q 4 | 週休2日制適用工事の試行状況 | Q 14 | 工事書類の量 |
| Q 5 | 週休2日実施の確認状況 | Q 15 | 土木工事電子書類スリム化ガイド活用状況 |
| Q 6 | 熱中症特設サイト | Q 16 | 遠隔臨場の試行状況 |
| Q 7 | 現場における熱中症対策の工夫 | Q 17 | 受発注者間の各種打合せにおける
WEB形式の活用状況 |
| Q 8 | 工期設定 | Q 18 | 担い手の確保の工夫 |
| Q 9 | パーティー数 | Q 19 | 自由記入(伝えたいとこ等) |
| Q 10 | 概略工事行程表の開示 | | |

II. 認知度、活用状況調査

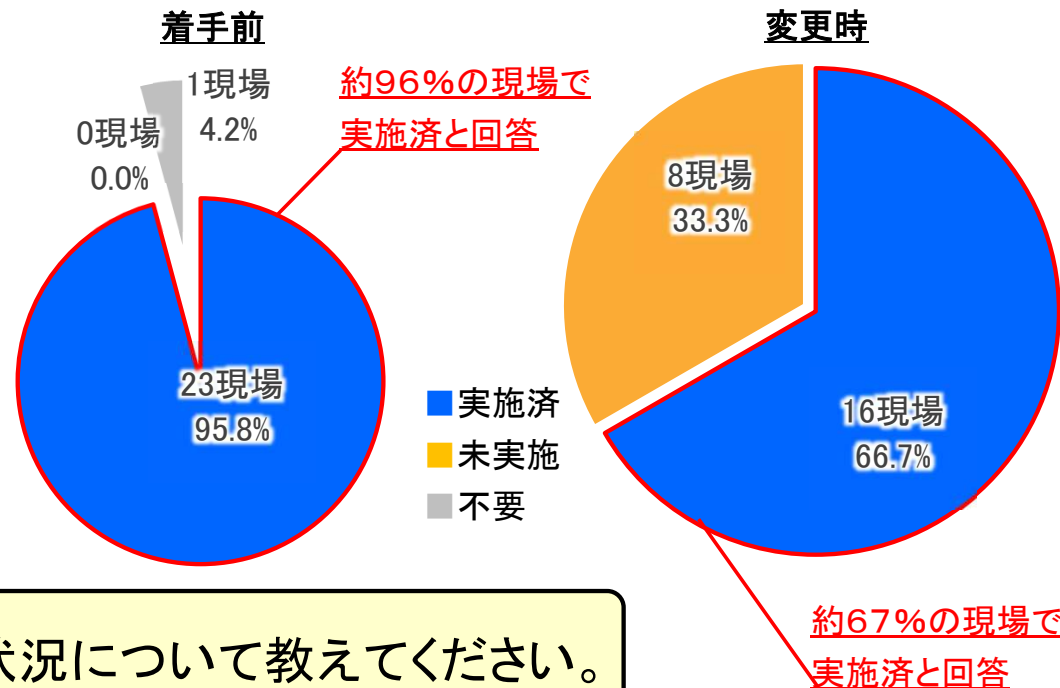
- ・ 設計変更ガイドライン
- ・ 一時中止ガイドライン
- ・ 設計照査ガイドライン
- ・ 条件明示の手引き

I. 現場実態把握調査 <①各種制度の実施状況>

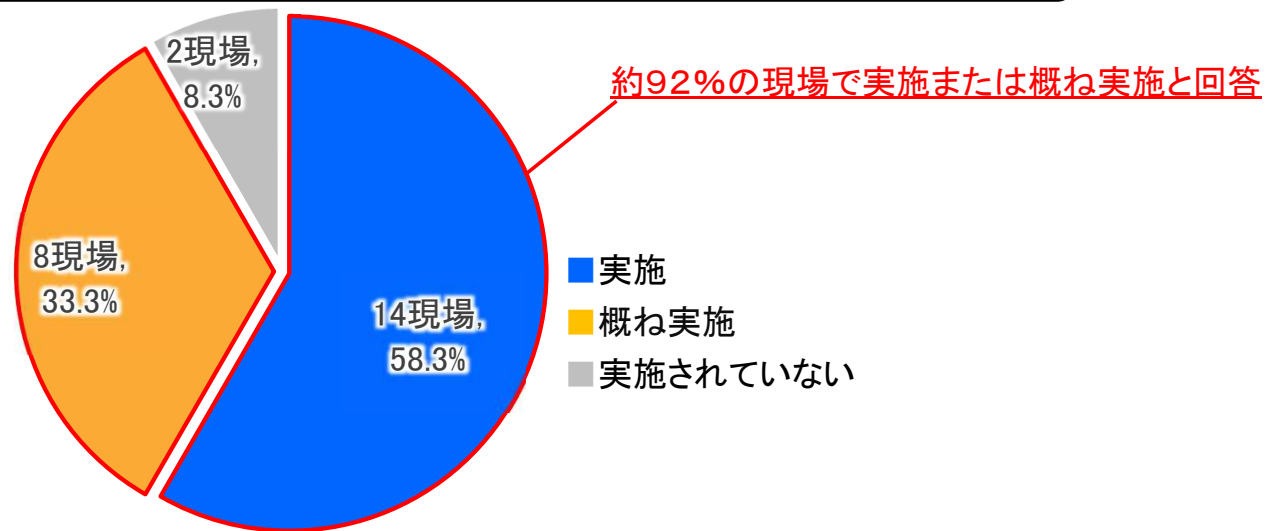
Q1 三者会議の実施状況について教えてください。



Q2 設計審査会の実施状況について教えてください。



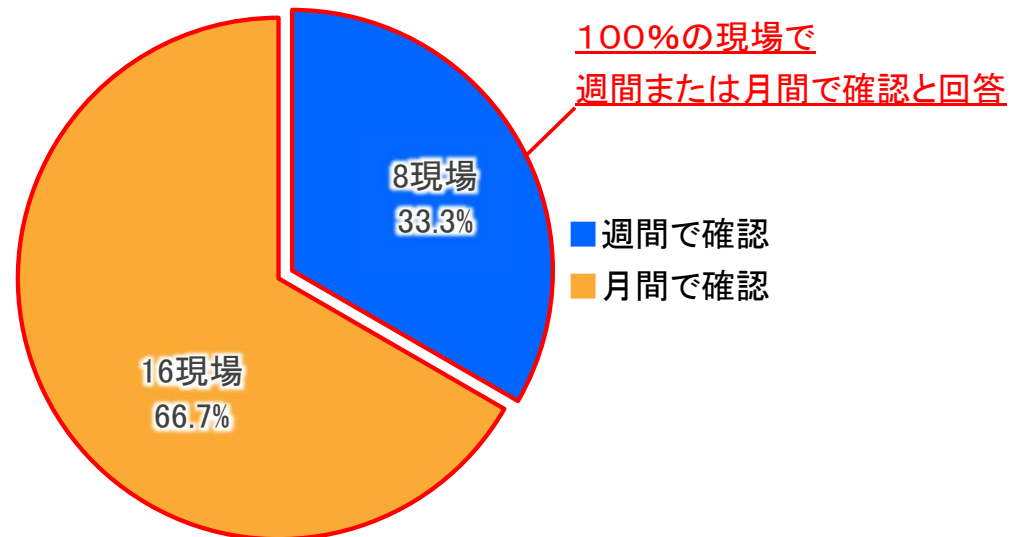
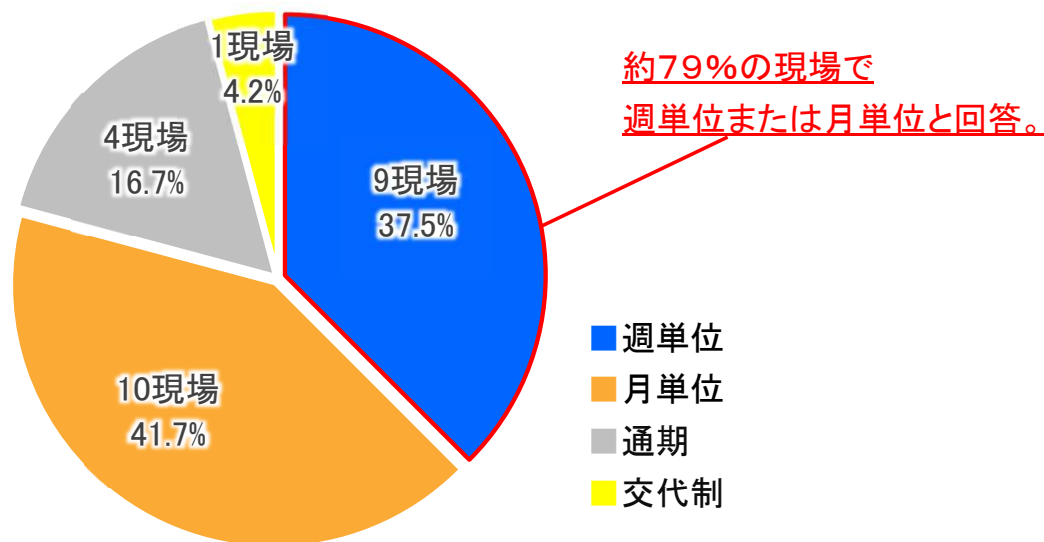
Q3 ワンデーレスポンスの実施状況について教えてください。



1. 現場実態把握調査 <②週休2日の実施状況>

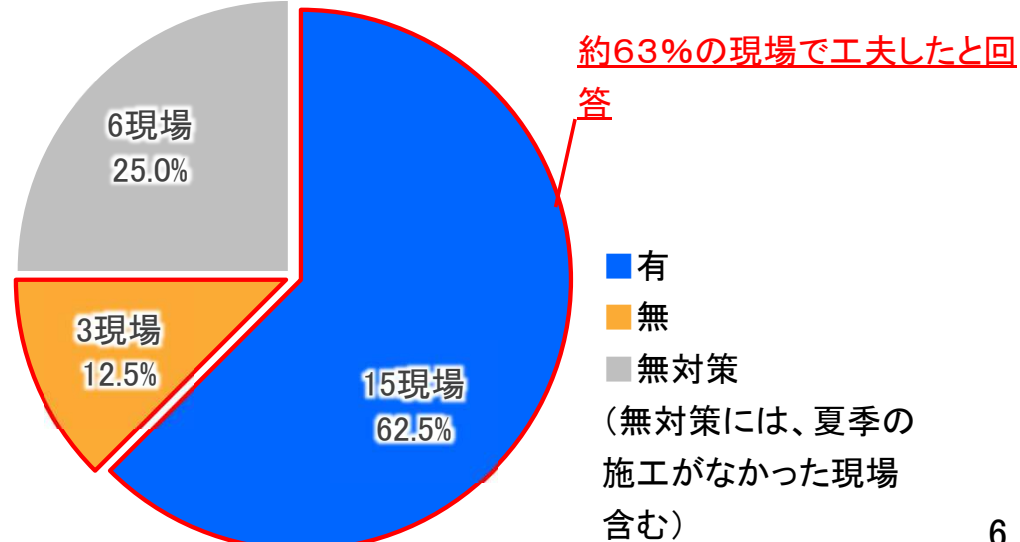
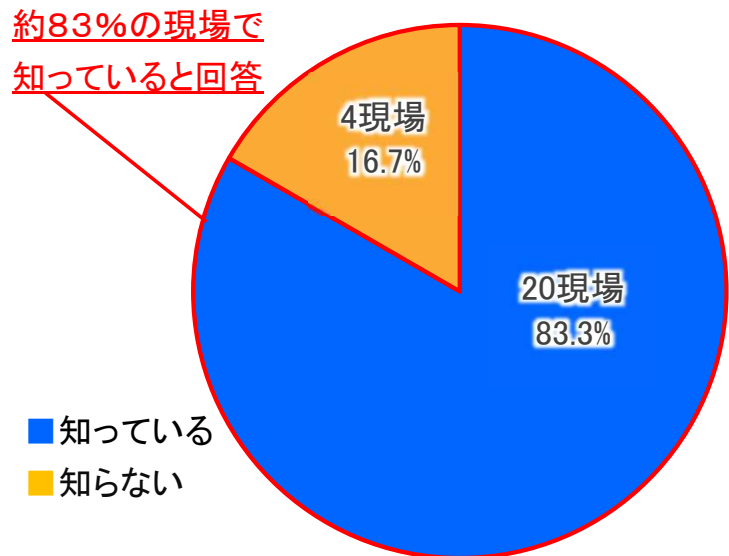
Q4 週休2日適用工事の種類について教えてください。

Q5 週休2日の実施の確認方法について教えてください。



Q6 熱中症対策特設サイトを知っているか教えてください。

Q7 現場における熱中症対策の工夫があったか教えてください。

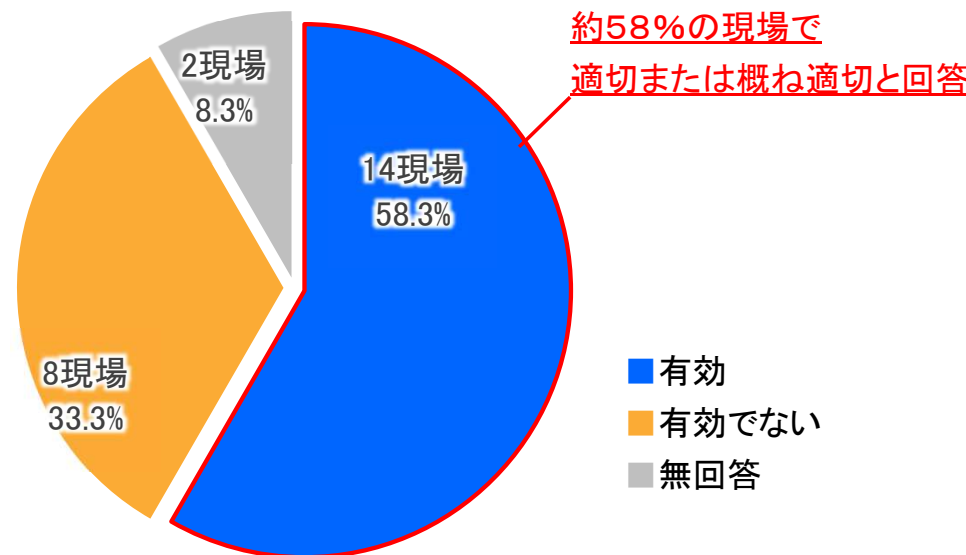
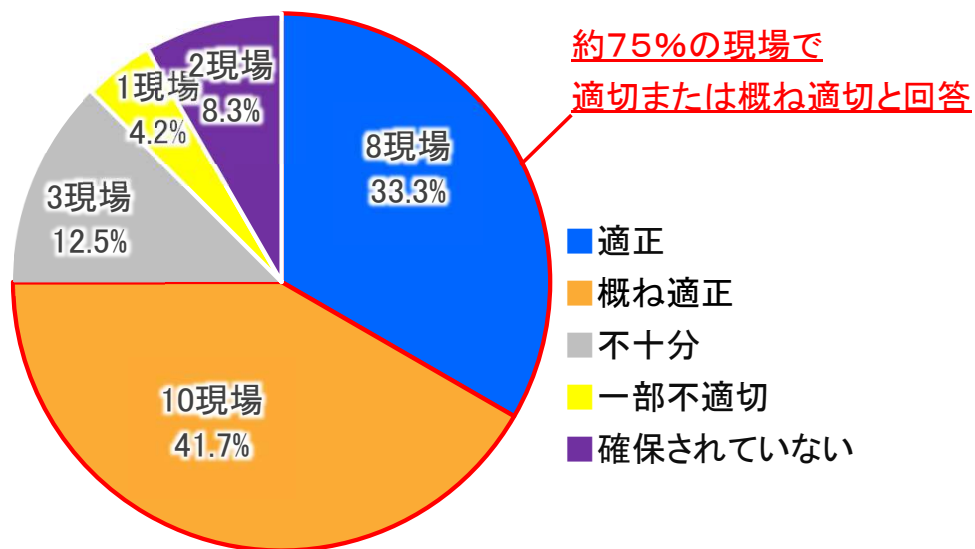


I. 現場実態把握調査

<③設計図書の状態の状況>

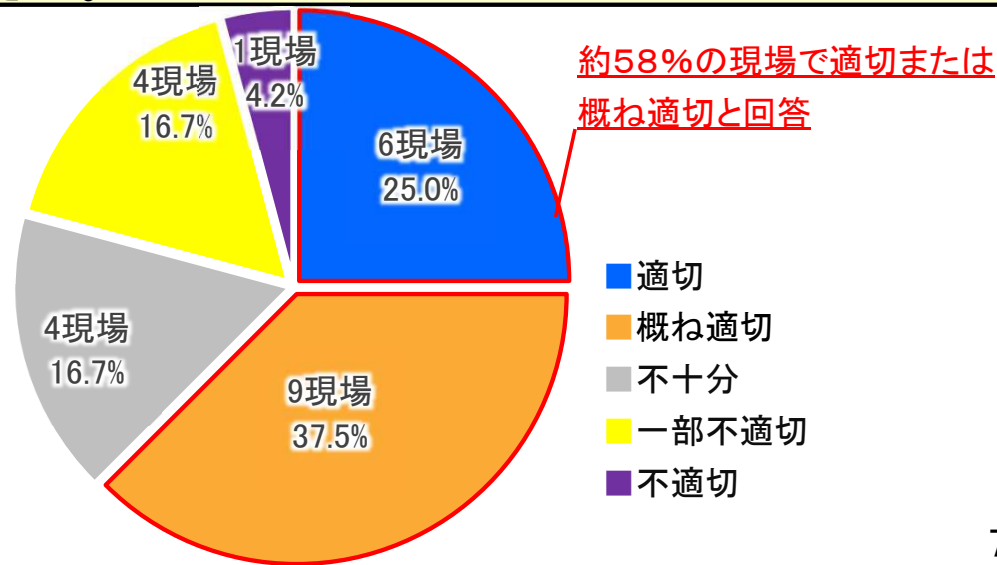
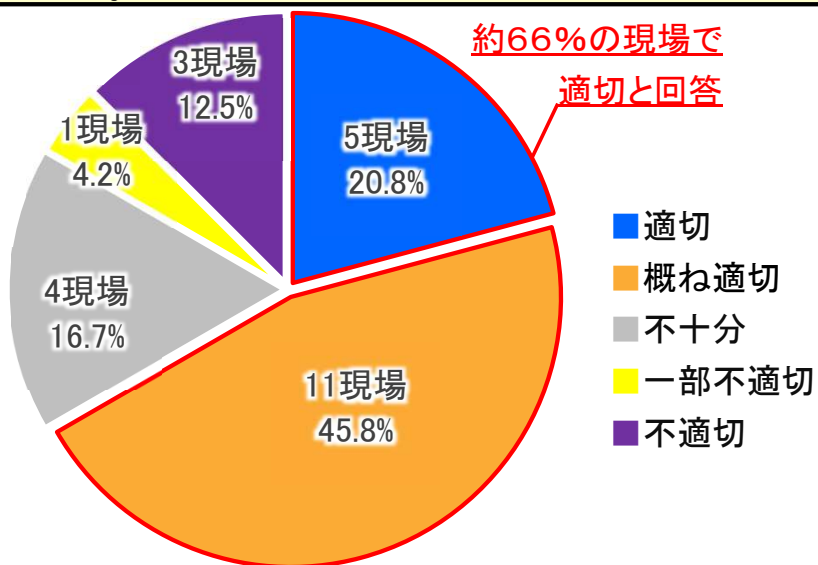
Q8,9 工期設定について教えてください。

Q10 概略工事工程表の開示について教えてください。



Q11,12 設計図書の条件明示について教えてください。

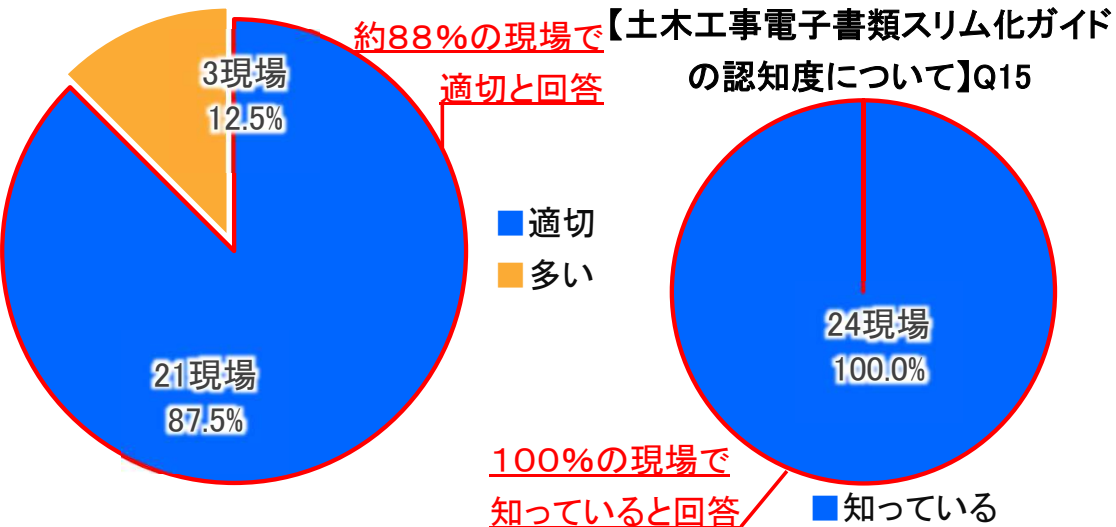
Q13 設計成果と現場の整合について教えてください。



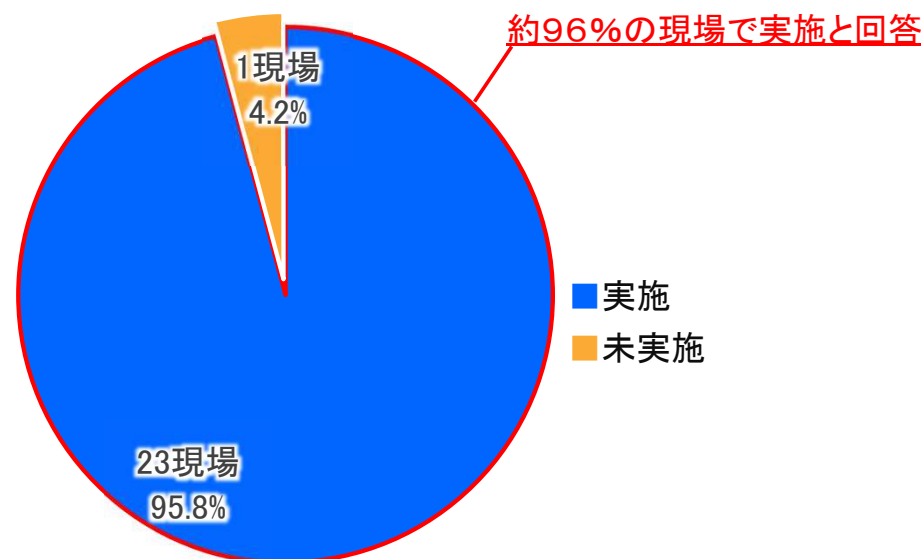
I. 現場実態把握調査

<③生産性向上、担い手確保の実施状況>

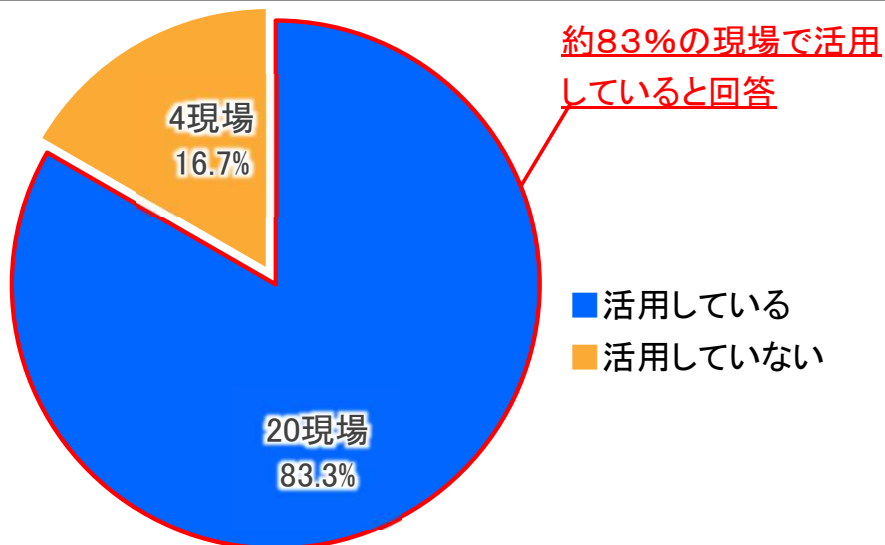
Q14 工事書類の量について教えてください。



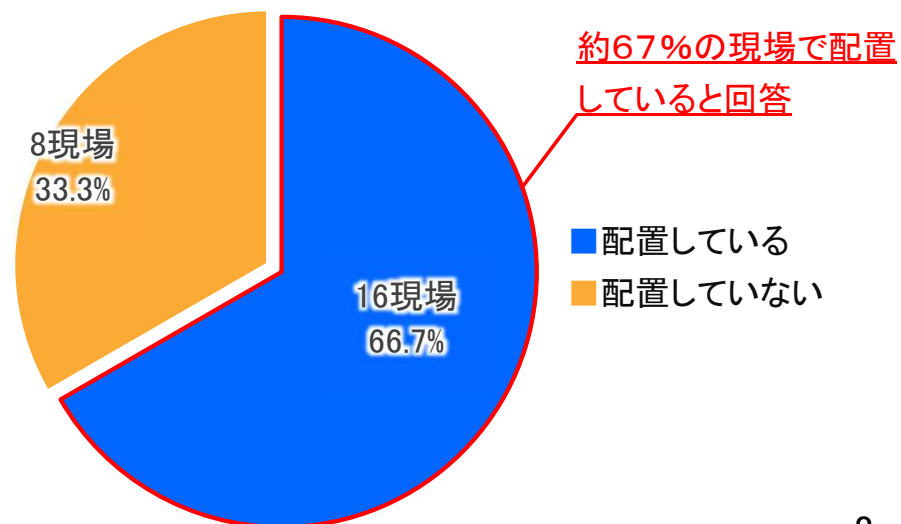
Q16 遠隔臨場の試行状況について教えてください。



Q17 受発注者間の打合せにおけるWEB活用状況について教えてください。



Q18 当該工事における35歳以下の若手技術者の配置状況を教えてください。



II. 認知度、活用状況調査<各種ガイドラインの認知度、活用状況>

Q 各種ガイドラインの認知度、活用状況について教えてください。

	設計変更ガイドライン	一時中止ガイドライン	設計照査ガイドライン	条件明示の手引き
認知度	<p>23現場 95.8% 1現場 4.2%</p>	<p>21現場 87.5% 3現場 12.5%</p>	<p>21現場 87.5% 3現場 12.5%</p>	<p>17現場 70.8% 7現場 29.2%</p>
	凡例 : ■知っている ■知らない			
活用状況	<p>18現場 75.0% 2現場 8.3% 4現場 16.7%</p>	<p>8現場 33.3% 5現場 20.8% 11現場 45.8%</p>	<p>18現場 75.0% 1現場 4.2% 5現場 20.8%</p>	<p>7現場 29.2% 5現場 20.8% 12現場 50.0%</p>
	凡例 : ■活用している ■活用していない ■活用機会なし			

■ワンデーレスポンス・ウィークリースタンスについて

ほとんどの現場で、実施または概ね実施であったが、次のような意見も見受けられた。

- ・受注者から回答希望日を伝えたが、発注者から回答が得られなかった。

⇒ 令和5年12月の「ワンデーレスポンス実施の手引き」に基づき引き続き適切な対応に努める。また、ワンデーレスポンス・ウィークリースタンスについて記載されている、令和8年3月にバージョンアップした「土木工事電子書類スリム化ガイド」の周知を図る。

■熱中症対策について

多数の現場で熱中症対策特設サイトを知っており、また熱中症対策について、次のような対策をしている。

- ・現場に冷房施設やウォーターサーバーを設置。
- ・計測計、空調服の配布

⇒ 引き続き熱中症対策特設サイトの周知と共に、現場環境の改善に努める。

■設計図書について

次のような意見が見受けられた。

- ・同時に施工できない作業でも同時作業となっており、現場に合っていない工程となっていた。
- ・実態と異なり、事前協議や調整が行われていなかった。

⇒ 実態に即した設計図書の精度向上に向けて、引き続き適切な対応に努める。また、適切な設計変更の実施のポイントを明確に記載している、令和7年3月の「設計変更ガイドライン」の周知徹底を図る。